

作成日 1999年 5月13日

改訂日 2017年11月13日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ガムリムーバー
供給者の会社名称	ペンギンワックス株式会社
住所	〒537-0021 大阪市東成区東中本3-10-14
担当部門	研究開発部
電話番号	06-6973-9130
FAX番号	06-6976-1456
推奨用途及び使用上の制限	業務用・ガム除去剤
整理番号	22-E-2282-10

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	エアゾール	区分1
	支燃性/酸化性ガス	区分外

※ 上に記載のない物理化学的危険性は、「分類できない」または「分類対象外」である。

健康に対する有害性	急性毒性（吸入：ガス）	区分外
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分3（麻酔作用）

※ 上に記載のない有害性は、「分類できない」である。

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語 危険

危険有害性情報 極めて可燃性/引火性の高いエアゾール
高压容器：熱すると破裂のおそれ
眠気またはめまいのおそれ

注意書き

- 【安全対策】
- ・熱、高温のもの、火花、裸火および他の着火源から遠ざけること。 禁煙
 - ・裸火または他の着火源に噴霧しないと。
 - ・使用後も含め、穴をあけたり燃やしたりしないこと。
 - ・ガス、スプレーの吸入を避けること。
 - ・屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- 【応急措置】
- ・吸入した場合：被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

- 【保管】
- ・日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。
 - ・換気の良いところで保管すること。
 - ・容器を密閉しておくこと。
 - ・施錠して保管すること。
- 【廃棄】
- ・内容物や容器を廃棄する時は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。
-

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 単一製品
化学名 : 1,1-ジフルオロエタン
含有量 : 99.5%以上
CAS No : 75-37-6

- ※ シックハウス・シックスクール配慮
シックハウス・シックスクールの原因としてあげられている厚生労働省指針値該当成分（13物質）については、これらを原料として使用していません。
- ※ 環境ホルモン対応
環境省「内分泌攪乱作用を有すると疑われる物質（65物質）」を使用していません。
-

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 高濃度のガスを吸入した場合は、直ちに新鮮な空気のある場所に移し、毛布等で保温して安静にさせ、速やかに医師の手当を受ける。呼吸が止まっている場合、呼吸が弱い場合は、衣服を緩め気道を確保したうえで、人工呼吸を、場合によっては酸素吸入を行い、直ちに医師の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合 : ガスの接触では障害は生じない。液体に接触すると凍傷の恐れがあるので、濡れた衣服や靴および靴下を直ちに脱がせる。付着部を多量の水を用い十分に洗浄し、刺激が残るときは直ちに医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : 液体に接触した場合は、直ちに清浄な水で15分以上洗眼し、速やかに医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 常温・常圧ではガスなので通常の使用において飲み込むことは考えられない。
-

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 小規模火災ではドライケミカルまたは炭酸ガス。大規模火災では水噴霧。
- 消火方法 : 容器の周辺で火災が発生した場合は速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器が破損しないように注水し、冷却する。容器が破裂する恐れがあるので冷却作業は十分な距離をとって行うこと。過熱により容器からガスが噴出した場合は、爆発の恐れがあるので安全な場所に退避する。容器に着火した場合は、可能なら容器を可燃物から遠ざける。大量の水を注水して冷却し、可能ならガスの漏洩を止める。漏洩部を塞ぐ前に火災を消してはならない。さもないと爆発性混合気が生じる恐れがある。炎により分解生成した有毒ガス（弗酸、フッ化カルボニル等）を吸入しないように注意し、周辺火災の消火に努める。上記の処置が不可能な場合は、爆発の危険を避けるため、安全な場所に退避する。必要な場合は、防護服または防火服、空気呼吸器または循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴を着用する。
-

6. 漏出時の措置

付近の点火源を直ちに取り除く。爆発性混合気の着火に充分注意すること。

- ・危険を伴わずに実施できる時は、容器のバルブを締めるか、漏洩部を塞ぐ。
- ・容器からの漏れが止まらないときは、開放された危険性のない場所に運び出し、放出する。
- ・大量に漏れた場合は、人を退避させ、漏洩した場所の周辺にロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。必要があれば呼吸用保護具を着用する。

7. 取扱い及び保管上の注意

<取扱い>

- ・吸入したり、眼・皮膚および衣服に触れないように、適切な保護具を着用し、できるだけ風上から作業する。
- ・蒸気の発散をできるだけ抑え、適切な換気を行って作業する。
- ・裸火や300～400℃以上の高温に加熱された金属等に接触すると熱分解し、有毒ガスを発生することがあるので、取り扱う場合はこれらに液及びガスが接触しないようにする。
- ・取扱い・保管場所で漏洩の危険性がある場合、電気設備についてはアースをとり、必要に応じた防爆仕様のものを採用しておく。
- ・容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加えまたは引きずる等の粗暴な取り扱いをしない。

<保管>

- ・直射日光を避け、低温で換気のよい場所に保管する。
- ・乾燥した場所に保管し、湿気や水滴等による腐食を防止する。
- ・火気、熱源から遠ざけて保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- ・屋内作業場での使用の場合は、発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。
- ・取扱い場所の近辺に、安全シャワー、手洗い、洗眼設備等を設けること
- ・防爆型換気装置を設置する。

管理濃度 : 設定されていない

許容濃度 : 日本産業衛生学会 (2004年度版) 記載なし

ACGIH (2005年度版) 記載なし

OSHA (1993年度版) 記載なし

AIHA WEEL-TWA 1,000ppm (2,700mg/m³)

AIHA : American Industrial Hygiene Association 米国産業衛生協会

WEEL : Workplace Environmental Exposure Limit 作業環境曝露限界濃度

保護具 呼吸用保護具、保護眼鏡、保護手袋、保護衣等を必要に応じ着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観 : 無色透明な液化ガス

沸点 : -25℃

融点 : -117℃

引火点 : -50℃以下

発火点 : 454℃

爆発限界 : 下限 4.0 vol % 上限 19.6 vol %

蒸気圧 : 0.596 MPa (6.078kgf/cm²) (25℃)

蒸気密度比 : 2.28 (空気=1)

水への溶解度 : 難溶

10. 安定性及び反応性

- 安定性・反応性： 常温では安定であるが、裸火等の高温熱源に接触すると熱分解して、腐食性の強いフッ化水素、フッ化カルボニル等の毒性ガスを生じる恐れがある。
- その他： アルカリ金属、アルカリ土類金属（Mg、Be等）や粉末状Al、Znとの接触を避ける。

11. 有害性情報

- 急性毒性（経口）： データ不足のため分類できない。
- 急性毒性（経皮）： データ不足のため分類できない。
- 急性毒性（吸入：ガス）： ラット LC₅₀ 64,000 ppm/4時間、区分外
- 皮膚腐食性/刺激性： データ不足のため分類できない。
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性： データ不足のため分類できない。
- 呼吸器感作性： データ不足のため分類できない。
- 皮膚感作性： データ不足のため分類できない。
- 生殖細胞変異原性： データ不足のため分類できない。
- 発がん性： データ不足のため分類できない。
- 生殖毒性： データ不足のため分類できない。
- 特定標的臓器毒性(単回ばく露)： 区分3（麻酔作用）
- 特定標的臓器毒性(反復ばく露)： データ不足のため分類できない。
- 吸引性呼吸器有害性： データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

- 生態毒性
- 水生環境有害性－短期間： データ不足のため分類できない。
- 水生環境有害性－長期間： データ不足のため分類できない。
- 残留性・分解性： データなし
- 生態蓄積性： データなし
- 土壌中の移動性： データなし
- オゾン層への有害性： オゾン破壊係数 0（但し、CFC-11を1.0とする）
- その他： 地球温暖化係数 138（但し、CO₂を1.0とする）

13. 廃棄上の注意

- ・廃棄する際は、使い切ってから火気のない戸外でガスが完全になくなるまでボタンを押し、ガスを抜いてから捨てる。
- ・容器などの廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- ・その他関係法令の定めるところに従う。

14. 輸送上の注意

- 国連分類： クラス2.1
- 国連番号： 1030

- ・高圧ガス保安法、船舶安全法、航空法に準拠して輸送する。
- ・運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下 損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項を留意して行う。

15. 適用法令

- | | |
|-------------------------|-------------------------------------|
| ① 労安法／施行令別表第1 危険物 | : 可燃性のガス |
| ／有機溶剤中毒予防規則 | : 該当しない |
| ／表示・通知義務 | : 該当しない |
| ② 高圧ガス保安法 | : 適用除外（施行令第2条第3項第8号、
施行令関係告示第4条） |
| ③ 毒物及び劇物取締法 | : 該当しない |
| ④ 船舶安全法 | : 告示別表第2 高圧ガス |
| ⑤ 航空法 | : 告示別表第2 高圧ガス |
| ⑥ P R T R 法 : 第一種指定化学物質 | : 該当しない |
| : 第二種指定化学物質 | : 該当しない |

16. その他の情報

参考文献

- ・ GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS） JIS Z 7253 : 2012
- ・ GHS対応ガイドライン 一般社団法人 日本化学工業協会 （2012年6月）
- ・ HFC-152a 安全データシート（2017/3/17改定）日本フルオロカーボン協会

参考資料

シックハウス・シックスクールの原因としてあげられている化学物質

①厚生労働省指針値該当成分（13物質）

ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、フタル酸ジ-n-ブチル、クロルピリホス、スチレン、テトラデカン、ダイアジノン、フタル酸ジ-2-エチルヘキシル、アセトアルデヒド、フェノブカルブ

②学校保健法：学校環境衛生の基準（ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物）

ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、パラジクロロベンゼン、エチルベンゼン、スチレン

本資料は、信頼し得ると考えられる資料並びに測定結果などに基づき一般的な取扱いを前提に作成したものです。ご需要家各位は、これを参考として自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切なる処置を、お取り下さるようお願い致します。